

町田の避難施設を
より良くシリーズ①町田市の**災害関連死**ゼロをめざして
～避難施設で失われる命を守りたい～

2026年7月28日に発生した熊本地震では、38名の方が亡くなる大きな被害が発生し、報道では避難所で生活する方々の様子が伝えられました。

近年、災害そのものによる「直接死」だけでなく、**その後の避難生活などの影響で亡くなる「災害関連死」の防止が大きな課題**となっています。

せっかく助かった命が、その後の避難生活で失われてしまう…災害関連死とはこういったもので、なぜ起きるのでしょうか。私は9月議会で、災害関連死と密接な関係がある（町田市の）避難施設の環境、そして市の取り組みについて質問して参りました。

2026年7月号-2
No.79

災害関連死とは？

→地震のショックや避難生活の負担などにより、災害関連死が発生することがあります。

災害による直接死の数を上回ることもあります

2011年 東日本大震災

災害関連死
3,800人を超える

2016年 熊本地震

直接死
50人災害関連死
220人超

2024年 能登半島地震

直接死
228人災害関連死
520人超

避難生活の長期化が影響

直接死の**4倍以上！**直接死の**2倍以上！**

おぜき重太郎 プロフィール

埼玉県蕨市生まれ茨城県稲敷市育ちの49歳。早稲田大学卒。ものづくり（工場経営）をしながら電気通信大学を卒業。現場を知り技術を大切にする経験が市政での分析力や実行力の基盤に。2014年、町田市議会議員に初当選。建設常任委員長等を歴任し4期目の現在は議会運営委員長に就任。“今できることを全力で”を信条に町田の救急医療の強化などの公約実現、そして市民の皆様にとって一番身近な議員を目指し日々奮闘中。

◎なぜ災害関連死は起きるのでしょうか？

災害関連死は、地震そのものではなく、その後の避難生活の中からも発生します。熊本地震の分析からは、**避難生活による心身への負担が、大きな要因**となっていることが分かっています。避難所生活のストレスや不安、体調の悪化、医療体制の混乱などが重なり、せっかく助かった命が失われてしまうのです。特に、高齢者や持病のある方ほど影響を受けやすいと言われています。私は9月議会で、こうした負担を少しでも減らし、市民の命と健康を守るための避難所環境の向上について一般質問を行いました。

【2016年熊本地震から見る災害関連死の原因】

主な原因	人数	割合
地震のショック、余震への恐怖 による肉体的・精神的負担	100	40.2%
避難所等生活の 肉体的・精神的負担	74	29.7%
医療機関の機能停止等による 初期治療の遅れ	43	17.3%

過酷な避難生活が続くと...



熊本災害デジタルアーカイブ
「震災関連死の概況について」
(平成30年3月12日)をもとに、
おぜき重太郎が作成しました。

避難所環境の改善は、単なる快適性の問題ではなく、市民の命と健康を守るための取り組みだと考えています。全てを一度に変えることは難しいかもしれませんが、まずは「温かな食事」と「雑魚寝ゼロ」を目指し、助かった命を守れる避難施設づくりを目指したいと思います。



重太郎

おぜき重太郎の

“こんな相談ありました”

おぜき重太郎は、町田市議会議員として、日々寄せられるご相談に真正面から向き合います。町田市に限らず、国や東京都を含めた行政に関するご相談についても丁寧に受け止めます。

時には制度の壁がありすべてが実現できるわけではありません。できない場合は理由をできる限り明確にお伝えし、時間がかかっても、別の解決方法がないかを考えます。

おぜき重太郎の“こんな相談ありました”では、実現したケースばかりでなく、実現に至らなかったケースも含めてお届けします。相談を通じて見えてくる地域や制度の課題を皆様と共有します。

自由民主党・日本維新の会会派は
国政連立の強みを市政に生かし
実行力と実現力で町田の課題解決
に取り組む政策会派です。

発行：自由民主党・日本維新の会

連絡先：〒194-0211 町田市相原町879-4 担当：おぜき重太郎

Mail: 10tarou0923@gmail.com Tel: 090-5751-0482